

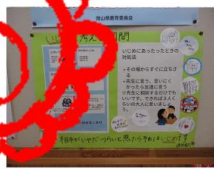


1学期、よくがんばりました～1学期終業式より～

7月19日(火)、1学期の終業式がありました。この1学期間、みなさんのがんばりをいろいろなところで見ることができ、とても嬉しかったです。今回は終業式でみなさんに話したことのおさらいをします。保護者の皆様もご一読ください。

①嬉しかったこと

- みんな、無事(いし)だったこと
- 児童会や正統の計画を立て、みんなでがんばったこと



- まずはみなさんが大きな事故、病気にあわず過ごせたことが一番嬉しいです。また校門に立ってあいさつをしています。だんだんにあいさつの声が大きくなったこと
- 3年ぶりのプール実習ができたことも嬉しかったです。
- 児童会の委員さんたちや5・6年生が中心となって行事の計画を立てて、みんなでがんばれたことです。例えば新入生を迎える会や春の遠足、にこにこタイムでの遊びを考えたことやみんなでがんばって作った「いじめをしない標語」づくりや6年生が下級生へのメッセージを作ってくれたことなど、自分たちから行動をおこしてくれる場面を見ることができたことが嬉しかったです。

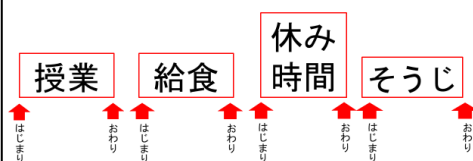
②夏休み がんばってほしいこと

心に**チャイム**を
ならそう

さあ明日から夏休みです。担任の先生や生徒指導の先生からがんばってほしいことややってはいけないことのお話があると思います。私からは「心にチャイムをならそう」をお願いします。

②夏休み がんばってほしいこと

学校では **チャイムがなります**



どういうことかという、学校では授業や給食などの【はじまり】と【おわり】には必ずチャイムがなります。このチャイムが「〇〇の授業が始まる」「給食の終わりのチャイムがなったら次は昼休みだ」など、自分がやることの合図になっています。

②夏休み がんばってほしいこと

家では **チャイムはなりません**

心に**チャイム**をならして
きそく正しい生活を
ルールを守って安全に
過ごそう

しかし、おうちではチャイムはなりません。気をつけないと、夜ふかしや朝ねぼうをして、だらだらと1日すごしてしまうことにつながります。その生活は健康によくありませんし、気がつけば「宿題がぜんぜんできていない」ということにもつながります。日課表を作って「この時間がきたら勉強!」「この時間がきたらお手伝い!」など、自分で自分の心にチャイムをならして、きそく正しい生活をしましょう。また学校のあるときにはなかなかできない【今までの復習】や【読書】などにも挑戦してみましょう。そしてトラブルに巻き込まれず、安全な生活を送りましょう。

結びに

**コロナ対策・熱中症対策を
しっかりしましょう**

- 3密を避ける ○てあらい・うがい
- 適切なマスク着用 (運動の時、近くに人がいない、話をしない時などは外す)
- 思いやり
- 水分をとる

みんな元気で

最後に、またコロナ陽性者が全国的に多くなってきています。夏休みも、自分でできるコロナ対策をしっかりしましょう。また熱中症にならないようにこまめに水分をとりましょう。

2学期、元気な姿で会えることを楽しみにしています。



夏休み お手伝いのススメ

「お手伝い至上主義でいこう！」より



以前、お世話になった先生が書かれた本の中に、経営コンサルタントの三谷宏治さんが書かれた「お手伝い至上主義でいこう！」（2011年 プレジデント社発行）が紹介されていました。私も実際に読みました。その中にある「ある事例」を紹介します。



最近、ある会社でのこと。

新入社員を10数名募集しました。新興の人気企業なので、応募倍率は20倍を超えます。その会社の人事部は、何段もの採用面接や各種試験を課して、選りすぐりの人材を採用した、ハズでした。

ところが、数ヶ月後、配属先の管理職たち数名が人事部に大クレーム。「なんであんな奴らを採用したのだ」と。クレームの内容は、その配属された新人たちが「**気が利かない**」「**段取りが悪い**」「**口ばかりで動かない**」「**感謝しない**」…要するに【**使い物にならん**】というわけです。

一般の企業以上にしっかり選考したつもりだった人事部も困惑します。たまりかねた人材採用担当者は、社内調査を実施し【**使える人材**】と【**使えない人材**】を分けるポイントを探りました。そして分かったことが1つ。

- ・【**使える**】と言われた新人は、子どもの頃、家でお手伝いをしていた経験がある。
- ・【**使えない**】と言われた新人は、お手伝いを全く、もしくはほとんどしてこなかった。

「**子どもの時のお手伝いの経験**」が仕事の質を左右していたということです。

その後、この会社では「子どもの時のお手伝い経験」を最も重要な採用基準にすると決めました。



お手伝いの経験と仕事力がどう結びつくのでしょうか。

著者の三谷さんは「お手伝いというのは、親から家庭内の仕事の一部を指示され、任される。その過程で**コミュニケーションする力、段取りする力、計画する力、問題解決する力、最後までやり遂げる力**等が自然に身につく」と言われています。

また「**お手伝いは家事の分担でOK**」と言われています。その中で工夫して仕事をする経験が将来に生きてくるとも言われています。お家の方は、自分がする方が早いので、つい我慢ができず、口出しをしたり、代わりにやったりすることもあるようですが、子どもの自立のために、それはNGだそうです。

（我慢が必要ですね）

私には2人の息子がいます。（今年、31才と25才になります）どちらも家を離れ、仕事をしています。それぞれの上司の方からの評価は聞いたことがないので分かりませんが、手伝いをさせるにはもう手遅れです。しかし、みなさんのお子さんはまだまだこれからです。家事の分担をされているご家庭もあると思いますが、まだのご家庭は、この夏休み、お子さんと話し合って、お家の仕事の何かひとつでも続けられる【**その子の役割**】をもたせてみてはどうでしょうか？

そしてお子さんがやり遂げたら、しっかりと【**労い**】をお願いします。お子さんの将来の仕事ぶりにつながるかもしれません。

